

令和元年度 第2回 中部森林管理局 国有林材供給調整検討委員会
(概 要)

1 開催日時

令和元年8月22日(木) 13時00分～15時00分

2 開催場所

名古屋木材会館

3 検討内容

- (1) 国有林材供給調整対策について
- (2) 情報交換等
- (3) その他

4 検討結果

価格解析結果では一部の販売ブロックにおいて木材価格が「定常範囲を逸脱する動き」を確認したものの、各委員からの意見等を総合的に勘案した結果、現時点において国有林材の供給調整を実施する「必要性はない」と判断する。

5 委員意見等

- ・愛知ブロックのスギ4mが逸脱の範囲にあるが、この長さでこの太さだったら3mにするとといった固定観念を持っている業者が多く、川上・川下側で意識の違いがある。
- ・岐阜県はヒノキの値段が今年は低調に動いている。中国・近畿エリアで出材が好調な影響を受けて、岐阜にも流れ込んでいる。ヒノキ3mの値段が若干動いたが、需要に対して不足している感がある。
- ・東濃地域のヒノキの供給については、特に大きな出来事がある訳ではない。夏場はどうしても出材は減るし、建築は好調なので無い高の傾向。スギの3m、もしくは5、6mが少ない。製品とのバランスがもう少し良くなればよい。
- ・買い手側としてはスギは潤沢にあり、大径材が入ってきている。今は入荷量が少ない時期だが、在庫を豊富に持っている。
- ・木曽は例外的なところがあるかもしれないが、山からの供給は4～6月は少なく、7月の長雨で出材量が急激に減った。また特殊な集材なので山に材が残ってしまい、挽くのに見合った品質ではなくなってしまった。
- ・カラマツ集成用ラミナが非常に不足しているのではないか。出材が少ない割には価格は上がらない状況。
- ・チップ工場で要因の異なるいくつかのトラブルがあり、関連業者も含めて製品在庫が増えた。半年は今の状況が続くと思う。
- ・裾物がチップやバイオマスで使えるようになって足を引っ張り、全体の価格が下がっているのではないか。用材を主体として伐れば価格は上がらないか。
- ・製材業者が減っている。売り手は言い値で買われてしまう。競合相手がいないのが単

価を下げている原因ではないか。

- ・長野県では市況調査をして木材単価を公表しているが、7月時点の単価で初めてヒノキとカラマツ（中目材）が逆転。集成材工場への出荷が多い。オリンピック景気。
- ・カラマツの価格上がっているのは違う用途を見つけたから。スギはうまく売ろうと施策を打っている。ヒノキは何も手を打っていないことに問題がある。
- ・中部局だけではなく近畿中国や関東エリアの影響も受ける。局外の情報をいただくのも判断材料として活用の仕方があるのではないか。